

市合同文化祭 2年生合唱披露

11月16日、とりぎん文化会館梨花ホールで、市合同文化祭が行われました。これは、鳥取市内の多くの中学校が参加し郷土芸能発表や合唱などを発表するものです。今年、附属中学校からは2年学年合唱を発表しました。

校内文化祭が終わってから少し間があいていたせいか、練習のときも、あまりうまく進みませんでした。梨花ホールでは息のあった合唱を披露しました。この文化祭は賞を競うようなコンクールの要素はありません。でも、他校の発表、合唱を聴くことができる大切な場だと感じました。2年生は、附属中学校の看板を背負っている意識で行動できたでしょうか。今回、学年で参加できたことを、ありがたく思い、それぞれが得てきたものを学校生活に生かしてほしいと思います。

(S)



マナーアップキャンペーン

テスト期間中の11月22日・24日にマナーアップキャンペーンを行いました。公共交通機関の利用時のマナー向上を目指して、下校時にバス停・鳥大駅前で執行部が呼びかけを行いました。こちらが呼びかけるよりも前に、ルールを守って待つ姿が附中生だなど感じました。執行部以外の方が呼びかけに参加してくださったり、周りで声をかけあつてくださったたりして、心強かったです。ご協力ありがとうございました。

これからも、他の利用者のことを考えたスムーズな乗車を心掛け、校外でも服装に気を付けるなど、附中生としての自覚を持ってマナーを向上させていきましょう。

(K)

鳥取大学附属中学校駅伝部
ありがとうございました。

鳥取中部地震の影響もあり日延べになった県駅伝が11月15日に行われました。

予定目に行われずに気持ち的にも体調的にも調整が難しかったと思います。しかし、選手みなさんは再び練習を続けていました。目標に向かって、ただただ進んでいる姿は何より美しい。そう感じさせてくれました。

そして、本番当日、学校にいる生徒の間では駅伝に関する話題で持ちきりでした。昼前になると、先生が教室に来られるたびに「駅伝どうですか？」などの質問が飛びかいました。部活は違っても学校の代表を心から応援できることは、この学校の長所の一つだと思います。そして、その期待に応える力強い走りをしてくれました。そして、現地でサポートしていた生徒、先生の全力なサポートがあったからこそその走りでもあったはずでした。

今回の駅伝を振り返って、3年生、そして2年生の選手にお話を聞いてきました。

3年生

今回、駅伝をさせて頂いて、悩む事もたくさんあったけど、チームのみんなに支えてもらいながら、何とかやり切ることができました。多くの人に支えてもらいながらも自分の目標に向かって頑張れたと思います。来年は県大会で成績を残してほしいです。ありがとうございました。

2年生

学年の壁もなく、皆が競い合ってタイムを伸ばしていくことができました。今後は自分が3年となり、まとめていく部分が多くなりますが、楽しく、皆で競い合って良いチームを作りたいです。そうすればタイムも伸び、団結したチームが作れると思います。一本の棒を二人、一人が走ってつなぎ続けて初めて完成形となる駅伝。とにかく前へと時に、無我の境地となるこの競技の奥は本当に深いです。たくさんの指導をしていただいた先輩方の心の棒を必ず来年の大会でしっかりと繋いで走り切りたいと思います。

部活というのは先輩がいて、後輩がいる。そしていつかは世代交代がある。部活には先輩から後輩へ受け継がれていくものが確かにあるのだと感じさせられました。

(Y)

今、後期後半に向けて生徒会長杯の計画を進めています。生徒会長杯とは日頃できていないことを出来るようにする期間でもあります。各委員会がこの期間にできるようにすることを決め、実行していきます。この期間にすることは一つ一つ意味があります。

例えば掃除の時間の意味です。僕が小学生の時に掃除は《もくもくそうじ》と言われ、しゃべらずに掃除をするように言われました。

しかし僕は、掃除は話ながらしてもいいと思います。なぜなら掃除ししゃべらない時間ではないからです。掃除とはなぜするのか調べてみると

『謙虚な人になれる』
人間の第一条件は謙虚であること
世の中で成果を上げる人は無駄に気づくことができる

『感動の心をはぐくむ』
人は一生懸命な姿に感動する
『感謝の心が芽生える』
人は感謝するから幸せになれる

とありました。この中には、掃除をしゃべらずにするなんて一言も書いてありません。

掃除の本質は人としての成長の時間なのです。その本質を問いながら取り組んでいけば、自然と黙って掃除をしているということだと思えます。

このように、今、当たり前にやっていることも、よくよく考えてみれば、思っていたことと違うということがあります。

生徒会長杯では、いつもできていないことはできるようにしていきたいと思います。できていることでも本質は違うかもしれないと、もう一度考え直しながら、日々の生活を過ごしていただく。

(N)

【編集後記】

今回、新聞を制作して思ったことは、立場によって見方が変わるということです。市合同文化祭では、参加した2年生が書いたことで共感しやすくなっていれば嬉しいですが、マナーアップ、中間テストは、自分の姿が人にどう映っているのかを考えられたでしょうか。執行部としても、色々な考え方を共有していきたいので着眼点を変えながら、これからも新聞作成にあたりたいと思います。これからもよろしくお願ひします。

(I)

